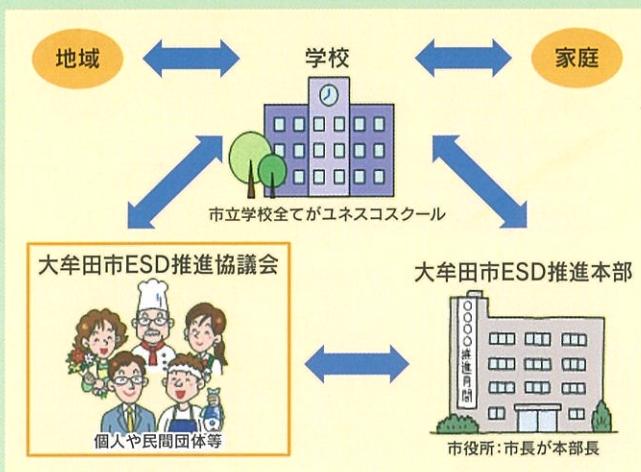


大牟田市がすすめているESD

大牟田市の全ての市立学校は、平成24年1月にユネスコスクールの認定を受け、学校や地域の実態に合わせて、持続可能な開発のための教育(ESD)を行っています。

大牟田市では、学校と家庭と地域などが連携協力し、市をあげて「ESD」を進めています。



○大牟田市ESD推進本部

市役所内に、「大牟田市ESD推進本部」を設置し、市をあげてESDを推進しています。

市長が本部長、教育長が副本部長、各部の部長が推進委員として、各部がESDの視点で事業を展開しています。

○大牟田市ESD推進協議会

個人や民間団体等により「大牟田市ESD推進協議会」を設立し、大牟田市教育委員会等と連携して、ユネスコスクールを支援したり、地域のESDを推進したりしています。

ESDとは、**Education for Sustainable Development** を略したもので、日本語では「持続可能な開発のための教育」といいます。

今、世界には、環境、貧困、人権、平和など、様々な問題があります。

ESDとは、私達だけでなく将来の子どもたちも含め、みんなが幸せに暮らせる未来や社会づくりのために、行動できる人を育てる学びです。

【大牟田市のESDのキヤッチフレーズ】

E→いつまでも (いつまでもつづく)
S→すばらしいまちへ (すばらしいまち大牟田のために)
D→できることから (できることから考え、行動する)



平成31年3月
大牟田市ESD推進協議会・大牟田市教育委員会

エスディージーズ
大切にしたい SDGs

- ◆世界各国はその力を結集し、あらゆる形態の貧困に終止符を打ち、不平等と闘い、気候変動に対処しながら、誰も置き去りにしない取組を進めています。
- ◆SDGsとは、そのために、2015年9月、国際連合サミットで採択された「持続可能な開発目標」のこと、2016年から2030年までに国際社会が取り組むべき目標として設定されました。
- ◆ESDとSDGsの関係は、ESD(持続可能な社会の担い手づくり)を通して、SDGs(17全ての目標)の達成に貢献するものです。ですから、ESDをより一層推進することが、SDGsの達成に直接・間接につながっています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



大牟田版

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

- ◆大牟田市では、これらの中から本市の実態に応じて、10の目標を選び重点的に取り組んでいます。



各学校でのESDの取組を紹介します

- ◆各学校では、世界遺産や環境、福祉、地域など、さまざまなテーマでESDに取り組んでいます。
- ◆各学校や地域の特色をもとに、身近な課題について学習することを通して、自分の問題として捉え、自分にできる身近なことを考え、行動できる子どもを育てています。

世界遺産学習



[子どもボランティアガイド]

環境学習



[川の調査]

福祉学習



[子ども民生委員活動]



[車いす体験]

地域学習



[桜プロジェクト]

その他、「国際理解学習」、「海洋学習」、「エネルギー学習」、「人権・平和学習」、「地域の伝統文化学習」など、各学校で様々なESDの取組が行われています。

わたしたちにできること

シンク グローバリー アクト ローカリー
Think Globally, Act Locally

「地球規模で考え、地域で行動しよう」

これは、「現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組む」というESDの基本的な考え方です。例えば、地球温暖化を考える時、まずは自分にできることからはじめます。具体的には「使っていない部屋の明かりを消す」とか「リサイクルに協力する」など、いろいろ考えられますね。

「他人事」→「自分事」→「みんな事」→「地球事」と考え、行動することが、私たちの住んでいる大牟田のまちづくりにつながりますし、大牟田から日本へ、そして世界へ広がり、いつまでも幸福で平和な未来へつながっていくことになります。

まず最初に、今自分にできることを考え、行動しましょう。



これまでの活動～これからの活動

【これまでの地域活動等をESDの視点から見ると…】

《ESDの視点》

人および、人を取り巻く自然・文化・社会・経済等は、多様で『いろいろ』あります。また、それらは互いに『かかわり』合っています。そして、『限りがある』資源で支えられています。

だからこそ、持続可能な社会に向けて『一人一人を大切に』『力を合わせて』『責任を持って』行動していかなければなりません。

そのために、『よく考え』『未来を予測して』『総合的に考える』ことが大切です。また、『つながり』に関心を持ち、『コミュニケーションを行い』『他者と協力し』『進んで参加する』ことが大切です。

※『_____』が視点です

《これまでの地域活動をESDの視点から見ると…地域清掃・福祉活動を例に》

小学校や中学校区などでの地域清掃は、「このまま、地域が汚れたらどうなるだろう（未来の予測）」「学校・家庭・地域が力を合わせると地域がとてもきれいになる（他者との協力）」ことから、環境問題の持続的な解決の取組といえます。

他に、車椅子体験や施設訪問、独居高齢者訪問等の福祉活動は、「身体の不自由な人や認知症などの（いろいろな人が住んでいる）」「みんなが幸せになるように互いに助け合って生きていかなければいけない（一人一人を大切に、コミュニケーションして、つながっていく）」ことから、共生社会の実現につながります。

このように、これまでのみなさんの活動は、地域等をよりよくすることと同時にESDの充実やSDGsの実現に大きく貢献しているとも言えます。

【これからは…ESDの視点も意識してみては…】

- ◆まずは、大牟田市内外の各学校のESDの取組をご覧になりませんか。毎年1月中旬の土曜日に「子どもサミット」が行われ、学校の取組が紹介されています。
- ◆普段の取組に「ESDの視点」も意識してみてはいかがでしょう。そうすることで、これまでの取組をより一層深く、豊かな国際社会の実現に向けた有意義なものへと高めていくことにつながるのではないかでしょうか。

《ごみの分別》で考えると、

- 「分別でどれくらい資源の節約になっているのだろう（資源の限界）」
- 「このまま、ごみが増え続けるとどうなるのかな。今何ができるだろう（未来の予測・計画）」
- 「分別することは地球が元気になることにつながっているんだ（つながり）」
- 「たくさんの人間に協力してもらうには、何を説明すればよいのだろう（コミュニケーション）」
- 「他の人も仲間になって手伝ってくれたらもっと活動が広がるな（他者と協力）」
- 「他の人の取組にも参加しよう（進んで参加）」

…などが考えられます。そして、SDGsに向かっても活動したいものです。

【ESD情報】

- ★1月17日は、「大牟田市ユネスコスクールの日」です。
- ★日本では、SDGsに取り組んでいる企業が増えてきています。
- ★学習指導要領（文部科学省が示す学校で教える内容）には、「持続可能な社会の創り手」の育成が掲げられており、各教科等に関連する内容があります。